

科目名	授業形態	単位数	担当教員名
幼児体育Ⅰ	演習	1	山中 愛美
<p>【授業のテーマ及び到達目標】 テーマ: 幼児体育の基本を学ぶ。 到達目標: ①保育者・教育者にとって必要な身体表現・身体運動に関する基本的な知識や技能を習得し、運動あそびを自らの創意・工夫を織り交ぜて実践できる。 ②子どもの運動機能の発達段階や個人差に配慮しながら、多様な運動あそびを構成することができる。</p>			
<p>【授業の概要】 ・「用具を使用する・用具を使用しない・身近な物を使用する」あそびを次の(1)～(5)の内容で活動する。 (1)競争を中心としたもの (2)技術の進歩を中心としたもの (3)ゲームを中心としたもの (4)模倣あそびを中心としたもの (5)鬼ごっこを中心としたもの ・実技中心の授業であるため、運動ができる服装および体育館シューズを着用すること。</p>			
<p>【全体の授業計画・内容】</p>			
1. ガイダンス、幼児体育とは			
2. 用具を使用しないあそび(じゃんけんあそび、かけっこリレー)			
3. 用具を使用しないあそび(かくらべあそび)			
4. 用具を使用しないあそび(ごっこあそび)			
5. 手具を使用するあそび(輪、棒)			
6. 手具を使用するあそび(コマ、竹馬)			
7. 手具を使用するあそび(縄、ボール)			
8. 大型用具を使用するあそび(マット)			
9. 大型用具を使用するあそび(跳び箱)			
10. 大型用具を使用するあそび(平均台)			
11. 大型用具を使用するあそび(パラバルーン)			
12. 身近な物を使用するあそび(新聞)			
13. 身近な物を使用するあそび(風船)			
14. 身近な物を使用するあそび(タオル)			
15. 各自で創意工夫したあそびを発表する、授業まとめ			
<p>【準備学習の内容】</p>			
予習のあり方: 次回のおそびについて情報を収集しておくこと。実技テストを行うので、各自で練習しておくこと。			
学習のあり方: 運動の得意・不得意に関わらず、保育者・教育者を志望する学生としてふさわしい態度で臨むこと。			
復習のあり方: 実践したあそびの内容や自らが創意工夫した点などを記録すること。			
<p>【成績評価】</p>			
授業内レポート提出を含む授業態度(50%)、実技テスト(30%)、提出物(20%)			
なお、8種目の実技テストをすべて合格することが評価の最低条件とする。			
<p>【課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法】</p>			
毎授業内で提出されたレポートは翌週コメントを付けて返却する。			
<p>【テキスト】</p>			
特になし			

【参考文献】

日本幼児体育学会『幼児体育—理論と実践—』大学教育出版